

龍樋の碑

■ 出土地：首里城跡（那覇市）

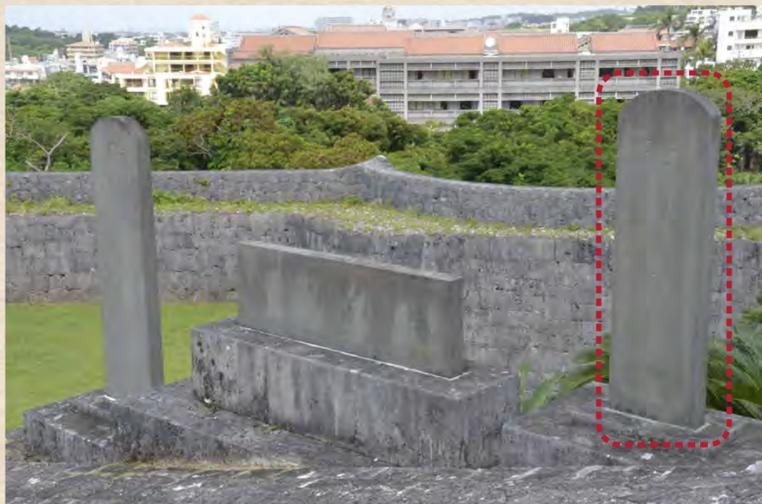
「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押しのお土産を、月替わりでご紹介。

今回は、7基建立された石碑のうちの一つ「源遠流長」です。

この石碑は、首里城跡^{かん かい もん}歓会門・久慶門^{きゅうけいもん}内側地区の発掘調査により出土したものです。頭頂部は角をとり丸く整形しています。中央に「源」とその右に「道光戊」という文字が見られますが、それ以下は戦争により欠落しています。しかしこれらの状況から、尚育王（在位 1835～1847年）の冊封使である林鴻年^{りんこうねん}が1838年に琉球を訪れた際、龍樋の水が尽きないことを表現して、「源遠流長」（源遠^{げんえん}ければ、流れ長し^{りゅうちよう}）と讚えたものと思われま^たす。現在、石碑は首里城瑞泉門脇に復元されています。

なお、龍樋とは石製の龍の口から湧き水が流れ出ていることから名付けられました。

この石彫の龍頭は1523年に中国からもたらされたもので、沖縄戦で一部が破壊されましたが、後に補修され元の場所に設置されています。



▲ 点線で囲んだ碑が「源遠流長」



▲ 現在も湧き出ている龍樋の水